

# ミドルリーダーを中心に日々の授業を変える ～チェック機能をいかした授業改善～

西部教育局  
お役立ち情報  
令和2年2月号

本年度の学校訪問では、授業参観や意見交換等お世話になりました。本号では、学校訪問から見た成果や課題と、ミドルリーダーを中心としたチェック機能をいかした授業改善の取組について紹介します。

## 学校訪問から見た成果と課題

### 【成果】

- 「めあて-まとめ・振り返り」やタイムマネジメントを意識した授業ができています。
- 教科や学年を越えて議論する等、一人一人の教員が主体的に参加できる校内研となっている。

### 【課題】

- 教員主導の授業になりがちで、子供のつまずきの丁寧な見取りや支援が必要。
- PDCAサイクルのPやDに陥りがちで、日々の授業の丁寧な振り返りが必要。



課題解決の手立てとして、ミドルリーダーを中心としたチェック機能をいかした授業改善の取組を紹介します。ぜひ参考にして、PDCAサイクルのCやAにつなげてください。

### 取組例①

#### 「研究通信」を使ってチェック

#### 【春の学校訪問】

- ・全学級の授業を公開
- ・指導主事と意見交換

学校訪問で見えてきた課題等について「研究通信」にまとめ、全職員で情報共有。

「研究通信」で全体共有

#### 重点事項を共有し授業実践

「研究通信(例)」  
授業改善の重点事項について  
～学校訪問の指導助言より～

【今後の改善事項】

1. 「全員がわかる授業」にするために
  - 板書の構造化を図る
2. まとめの明確化
  - 活動ではなく、ゴールイメージを大切に

「研究通信」で全体共有

#### 【秋の学校訪問】

- ・全学級の授業を公開
- ・取組の振り返り

#### 重点事項を共有し授業実践

### 取組例③

#### 教員の授業評価を使ってチェック

「授業チェックリスト」を活用し、全教員が自己評価。研究主任が個別にフィードバック。

#### 「授業チェックリスト」

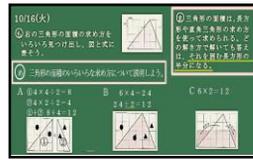
○めあて	
□ 本時のゴールイメージから「めあて」を構想している。①	
□ 「まとめ」と「めあて」が正対している。②	
□ 子供の疑問や気付きをもとに「めあて」を設定し、提示している。③	
○まとめ	
□ 子供の発言から「まとめ」を作成し、板書に整理している。④	
□ 教科ならではの学習用語を取り入れている。⑤	
□ 理解確認のための問い返しをすることで、全ての子どもが「まとめ」について具体的にアウトプットできるようにしている。⑥	
○振り返り	
□ 具体的に振り返ることができるよう、振り返りの視点を示している。⑦	
○タイムマネジメント	
□ 時間内に本時の振り返りまで到達し、全ての子どもが本時の学びを自覚できるようにしている。⑧	

個別にフィードバックするだけでなく、学校全体で課題の見られた項目を中心に校内研で検討して授業改善を図ります。

### 取組例②

#### 日々の板書記録を使ってチェック

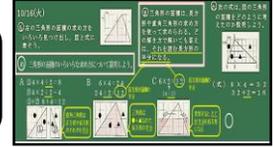
他の学級の板書と比較検討できるよう、板書を撮影し、C4th上で共有。



子供の思考過程が見えるようにするにはどうしたらいいのかなあ...



わたしは、いつも子供の発言を色チョークを使って板書していますよ。



写真記録を残しておくことで、同じ授業を学年団や教科部会で振り返ることができます。

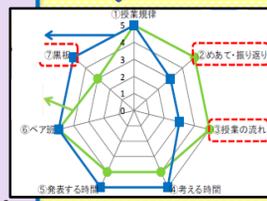
### 取組例④

#### 子供の授業評価を使ってチェック

子供による授業評価を通して、教員が日々の授業を振り返る。

#### 【評価項目】

- ①先生は、授業規律について指導した。
- ②「めあて-まとめ・振り返り」があった。
- ③授業のはじめに「授業の流れ」があった。
- ④自分で考えたり、調べたりする時間があった。
- ⑤自分で考えたり、調べたりした内容を発表する時間があった。
- ⑥班で意見を出し合う時間があった。
- ⑦授業内容が黒板にまとめられていた。



授業評価の結果をレーダーチャート等で示し、個々の授業を振り返ることで、授業改善を図ります。